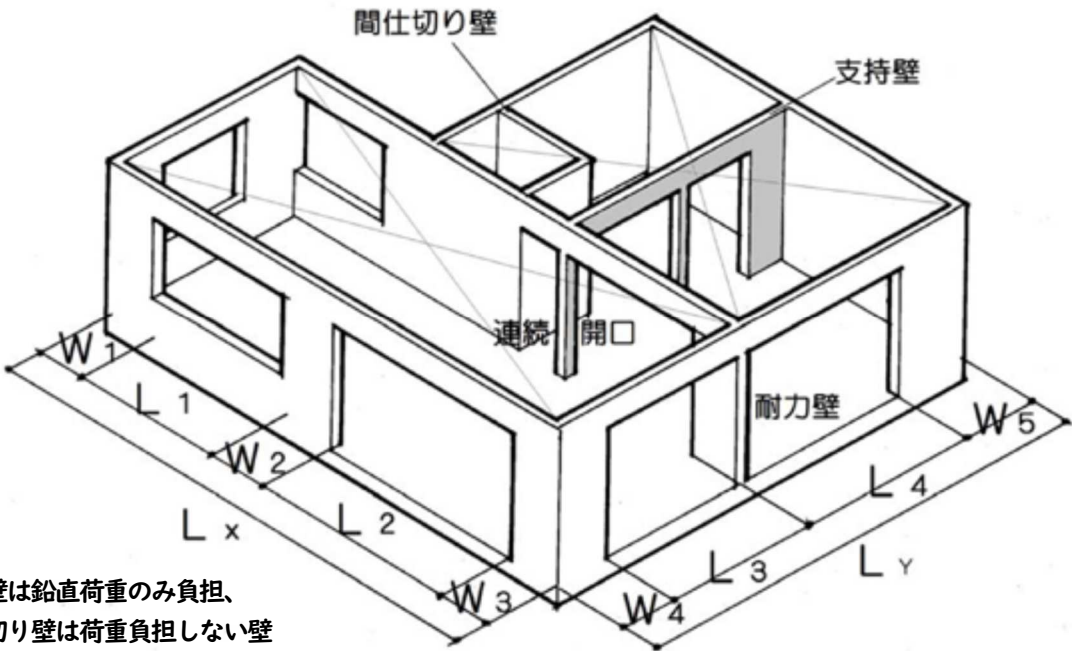


仕様規定		適合状況	「否」が1つでもあれば、許容応力度計算が必要
アンカーボルトの規定	【第3第二号】	適 ・ 否	
床根太間隔 6 5 cm 以下	【第4 第三号】	適 ・ 否	
床版のくぎ打ち規定	【第4 第七号】	適 ・ 否	
壁量（壁倍率）の計算方法	【第5 第五号】	適 ・ 否	
耐力壁の隅角部、交さ部のたて枠本数が、 2 0 4は3本以上、2 0 6は2本以上	【第5 第九号】	適 ・ 否	
頭つなぎを設ける	【第5 第十一号】	適 ・ 否	
壁のくぎ打ち規定	【第5 第十五号】	適 ・ 否	
たるき間隔 6 5 cm 以下	【第7 第二号】	適 ・ 否	
小屋組のくぎ打ち規定	【第7 第九号】	適 ・ 否	



仕様規定		適合状況	「否」が1つでもあれば、許容応力度計算＋偏心率 ≤ 0.15 計算が必要 ※ルート 3 となる場合もある。
床根太スパン 8 m 以下	【第4 第二号】	適 ・ 否	
耐力壁線区画面積 7 2 m ² 以下 (区画長辺/区画短辺 ≤ 2) ※ 60 m ² 以下は長短比率の規定なし	【第5 第六号】	適 ・ 否	
耐力壁線間の距離 1 2 m 以下 $L_x、(L_3 + W_4)、(L_4 + W_5) \leq 12m$	【第5 第六号】	適 ・ 否	
外壁交さ部の一方の耐力壁長さ 9 0 cm 以上 W_3 又は $W_4 \geq 90\text{ cm}$ (又は交さ部補強)	【第5 第七号】 ※	適 ・ 否	
開口部の幅が 4 m 以下 $L_1、L_2 \leq 4\text{ m}$	【第5 第十二号】	適 ・ 否	
開口率が 3/4 以下 $(L_1 + L_2)/L_x \leq 3/4$	【第5 第十二号】	適 ・ 否	

建築主
建築場所
設計者